

ミャンマー国軍による軍事クーデターならびに市民に対する野蛮な武力弾圧に対して新医協は強く抗議し、平和的解決のために日本政府に実効性のある対応策の実施を求める。

2021年3月31日

新医協（新日本医師協会）常任理事会

ミャンマー国軍は2021年2月1日、軍事クーデターを起こし、アウンサン・スー・チー国家顧問、ウイン・ミン大統領ら政権与党、国民民主連盟（NLD）の議員や幹部を多数、拘束した。これらの暴挙に対してミャンマー国民は抗議の声を挙げ、各地で抗議デモが行われたが、国軍は野蛮な暴力的弾圧を行い、2021年3月27日までミャンマー各地で子どもや赤ちゃんを含む420人以上が殺害されている。犠牲者は抗議デモに参加している市民のみならず、広くミャンマー国民全体に及んでいる。

市民・公務員・医療福祉関係者・教育労働者たちは市民的不服従運動（CDM）で対抗しているが、銃口を直接突きつけるなどの暴力的弾圧が日常的に行われており、事態はきわめて緊迫している。

一方、日本政府は「国軍とのパイプ」があることを仄めかしてはいるものの、「在日ミャンマー市民協会」の代表から「クーデターから50日以上、経過したが意味のある行動をしていない。何もしていないのと同じだ」と抗議される始末である。

こうした状況にあたって新医協（新日本医師協会）は下記のことを強く求める。

1. ミャンマー国軍は軍事クーデターに抗議する市民、国民民主連盟に代表される民主勢力に対する武力攻撃を直ちに中止せよ。
1. 日本政府は、ミャンマー国軍に対して、市民に向けた武力弾圧を止めて、選挙で選ばれたこれまでの議会の場に直ちに復帰すべきことを強く求めよ。そのためには国軍関連企業や関係者に対する経済制裁など、すでに欧米各国が行なっている、実効性のある措置を行え。